

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・現道の交通量は増加傾向にある。
- ・北関東自動車道の全線開通(H23年度予定)により、今後も交通量の増加が見込まれる。
- ・高速道路へのアクセス強化と自転車・歩行者の安全な通行のため、未整備区間の早期完成を図る必要がある。



華蔵寺公園入口交差点付近の渋滞状況(拡幅前)

交通量等の変化

交通量調査	交通量 (台/12h)	混雑度
H11	10,178	1.28
H17	12,588	1.37

観測地点:伊勢崎市本関町27-3

4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- ・工区を3分割し、事業効果の早期発現を図っている。
- ・整備済み区間は右折レーンと歩道が設置され、交差点の渋滞の解消と歩行者・自転車の安全な通行が確保されている。
- ・H25年度の全線供用に向け最終工区を整備中であり、用地買収もほぼ完了している。



華蔵寺公園入口交差点(拡幅前)



右折レーン設置後

費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考 便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成15年8月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		
基準年		平成17年		平成21年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	3,818,000	97.3%	4,876,000	97.2%	時間経過により、過去支出の現在価値換算額が増加
	維持管理費	105,000	2.7%	139,000	2.8%	
費用合計(C)		3,923,000		5,015,000		
便益 (千円)	走行時間短縮便益	10,781,000	82.6%	8,833,000	97.3%	将来交通量推計値の減少、便益原単位の縮小等による減額
	交通事故減少便益	1,512,000	11.6%	241,000	2.6%	"
	走行経費減少便益	757,000	5.8%	1,000	0.1%	"
便益合計(B)		13,050,000		9,075,000		
費用対効果分析(B/C)		3.33		1.81		